

わ く わ く

12月号

本 だ な



『くつやのドラテフカ ポーランドの昔話』
 ヤニーナ・ポラジンスカ／文 ワンダ・オルリンスカ／絵
 足達和子／訳 福音館書店

とてもしんせつなドラテフカは、すをこわされたアリを
 たすけたり、カモにパンをわけたりと、こまっていれば、
 だれでもたすけてあげました。あるとき、おひめさまをた
 すけるために、ドラテフカはまほうつかいにいどみます。

えほん

K913 『ひみつのきもちぎんこう』

ふじもとみさと／作 田中六大／絵 金の星社

ゆうたがわるいことをすると、どこからか「ジャリ
 ーン」という音がきこえてきました。ふしぎに思っ
 ていると、「きもちぎんこう」から、つうちょうがいっ
 ぱいになりそうだという手紙がとどきます。

1・2年生



K933 『ちやいろいつつみ紙のはなし』
 アリソン・アトリー／作 殿内真帆／絵 松野正子／訳
 福音館書店

クリスマスが近づいた日、ちやいろいつつみ紙が、
 新聞屋さんから売られていきました。ちやいろい紙
 は、おばあさんにとどけるクリスマスプレゼントを
 つつんで、ぼうけんの旅にでかけます。

3・4年生

K913 『岬のマヨイガ』

みさき 柏葉幸子／著 さいとうゆきこ／絵 講談社

両親を事故でなくした萌花は、震災の避難先で出会
 った二人の女性と、家族のようにくらすことになりま
 す。その生活に慣れてきたころ、いっしょにくらすお
 ばあちゃんをたずねて、カッパがやってきました。

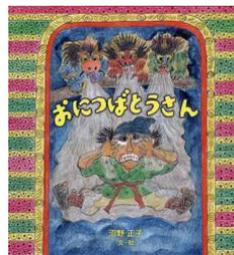
5・6年生





えほん

『エドワードとうま』
アン・ランド／文
オーレ・エクセル／絵
谷川俊太郎／訳 岩波書店



えほん

『おにつばとうさん』
沼野正子／文・絵
福音館書店



『クリスマスの森』

ルイズ・ファティオ／文 ロジャー・デュボアザン／絵
つちやきょうこ／訳 福音館書店
プレゼントをくばるとちゅう、森でおべんとうを食べたサンタ・クロース。おなかがいっぱいになって、うっかり、ねむってしまいました。それを見たキツネは、このままではプレゼントがとどかないとあわてます。

えほん

しぜん
『自然のとびら』

ケイ・マグワイア／文 ダニエル・クロール／絵
さいとうみわ／訳 アノニマ・スタジオ
冬になり、まわりが雪でおおわれると、植物や動物をほとんど見かけなくなります。しかし、よく見ると、春をまつ生き物がたくさんいるのです。季節ごとにかわる、自然のすがたをのぞいてみましょう。

えほん



K489 『ゴリラが胸をたたくわけ』

山極寿一／文 阿部知暁／絵 福音館書店
ゴリラが胸をたたくことを、ドラミングといいます。ドラミングは、戦いを宣言し、相手をおどす行動だと言われていました。けれども、ゴリラをよくかんさつしてみると、そうではないことがわかってきたのです。

ちしきの本

いね
K616 『稲と日本人』

甲斐伸枝／さく 佐藤洋一郎／監修 福音館書店
日本人がいつからお米を作っていたか知っていますか？なんと二千数百年ものむかしから、作りつづけているのです。台風や地震などの自然災害に負けずに続いてきた、稲と日本人の歴史を見ていきましょう。

ちしきの本



としょかんのまどぐちには、くみたてると本になる「わくわく本だな」もあるよ。

ホームページもみてね！〈編集・発行〉富山市立図書館 富山市西町5番1号 電話 076-461-3200